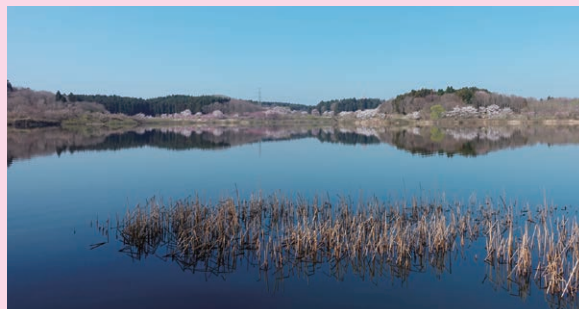




サクラ

けじょぬま 化女沼ダム



▲早春の化女沼（けじょぬま）

北上川水系田尻川は、その源を大崎市岩出山十字街地内に発し、涌谷町唐崎において江合川に合流する流域面積77.2km²、流路延長30.6kmの一級河川です。

この川は、もともと川幅がせまいうえ下流部では低湿地帯を流れるために、昭和22年（1947年）9月のカスリン台風、昭和23年（1948年）9月のアイオン台風の洪水の際には大きな被害が発生しました。その後も氾濫を繰り返したため抜本的な対策として、昭和43年（1968年）度に中小河川改修事業田尻川改良工事計画の策定により、化女沼ダムが計画されました。

化女沼ダムは、田尻川改良工事全体計画の一環として大崎市古川川熊字苔の谷地地内の長者川に造られた治水ダムで、総事業費175億円で建設され、田尻川の洪水調節を行い下流沿岸の水害を防除するとともに、化女沼に依存する農業用水の補給を行うことを目的としています。

■ダムの目的

洪水調節【F】

田尻川の導水地点における計画高水流量100m³/sのうち90m³/sをダムに導水し、放水路から最大10m³/sを田尻川へ放流し洪水調節を行い、田尻川沿川地域の人々の暮らしを洪水から守ります。

流水の正常な機能の維持【N】

ダムが建設される前から化女沼を水源としていた田畑への農業用水を補給するなど、河川機能の維持を図っています。

ダム諸元

河川名：一級河川北上川水系田尻川
所在地：大崎市古川小野字遠沢
完成：平成7年（1995年）9月
形式：ゾーン型フィルダム
堤高：24.0m
堤頂長：260.0m
堤体積：228千m³
総貯水容量：3,020千m³
洪水調節容量：2,180千m³
利水容量：700千m³

コラム

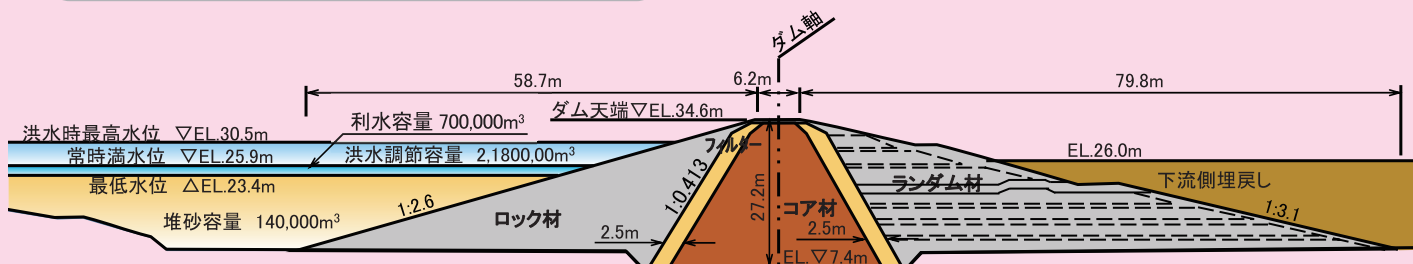
化女沼は、昔から周辺の耕地に対する農業用水の水源として広く利用されてきました。化女沼ダムはこの機能に加え、本来の流域ではなかった田尻川流域の一部の流水を導水し、洪水調節により下流河川の氾濫防止、用水供給を行う、直接流域に加えて間接流域を持つダムとなっています。



導水路(通常時)



導水路(洪水時)



▲標準断面図